

2018年  
3月2日

金曜日

《埼玉・首都圏経済面》

## 首都圏中堅・中小 売り手市場 奔走

### 採用活動 解禁

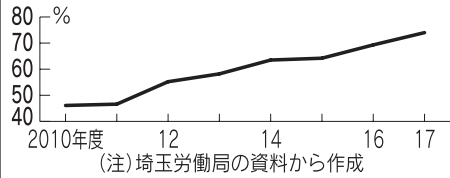


マイナビの合同会社説明会には約100社が参加（1日、東京都内）

経団連に加盟する企業の会社説明会などの採用活動が解禁された1日、首都圏でも2019年春入社の就職活動が本格的に始まった。人手不足で学生が有利な「売り手市場」が続き、特に中堅・中小企業の採用環境は厳しさを増している。大手に流れがちな学生の関心を少しでも引こうと、独自の採用活動や目を広げた人材確保に腐心する企業が目立つ。

## 動画で仕事を紹介 門戸狭め人材発掘

埼玉県内の大卒予定者の就職内定率は上昇している（各12月1日時点）



1日に東京都文京区で開いた合同会社説明会「マイナビ就職WEBEXPO」。会場にいない学生もウェブ配信で説明を聞き、企業の採用担当者にはチャットで質問できるイベントだ。今回から夜間の配信を始めた効果もあり、参加企業は大手を中心に約100社と前年比7割近く増えた。大手が採用意欲を高めるなか、中堅・中小が重視するのが独自性だ。スマートフォン向けゲームなどを手掛けるカヤック

許諾番号30061301 日本経済新聞社が記事利用を許諾しています。  
©日本経済新聞社 無断複製転載を禁じます。  
日本経済新聞社は、記事内容により、特定の企業・団体や商品・サービスの購入・投資等を推奨するものではありません。

（神奈川県鎌倉市）は、入社後に住む物件の内見と就活を組み合わせた「内覧面接」を実施する。同社グループの不動産会社が物件を仲介し、学生の内見に人事担当者が同行。現地面接する珍しい取り組みだ。

大卒の就職内定率は上昇傾向にあり、学生の就活環境は空前の売り手市場とされる。埼玉県内の中堅食品メーカーは「就職難の時は700〜800人の応募があったが、売り手市場の今は100人くらい」とこぼす。

土産物製造・販売のやます（千葉県市原市）は今年から、企業説明会の対象人数を従来の半分以下の1000人程度に絞る。あえて門戸を狭めることで強い志望動機を持った学生を効率よく選り、離職率を下げる「逆張り」の発想だ。

国内の新卒採用にこだわらない採用活動も目立ってきた。クラウドセキュリティサービスHDE（東京・渋谷）は外国人の学生らを狙い、東京への渡航費などを会社が負担して6〜8週間に渡るインターンシップ（就業体験）を続ける。通年採用する方針で優秀な人材を取り込む。

東京商工会議所が15、16両日に開く合同説明会「東商就職ジョブフェア」も、今年は新卒に限らず、留学生、キャリア人材、再就職をめざす女性などにも対象を広げる。東商人材支援センターの山崎幹人所長は「良い人材は新卒や春入社でなくても採用したい」という経営者が多い。ニーズに合わせて体制を整えたい」と話す。